

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	1
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に ⇒ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」 の流れを創る		◇5年後の転入者数 80人増加			
施策	概要		KPI		目標値	
やぶぐらしの提案によるI・Jターンの 促進	空き古民家や空き農地を活用した“農”がある田舎暮らしを 体験することにより、養父市の魅力を提案するとともに、移 住・定住希望者等の住まいやしごとまでをコーディネートす るワンストップ窓口の機能強化と専門相談員を育成する。		移住・定住相談件数 お試し住宅利用者数		2,000件(累計) 20組(累計)	
KPI推移	H27	H28	H29	H30	H31	備考
	501件/4組	1119件/7組	1744件/11組			累計

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
	主な活動指標	H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(6月末現在)	H29成果実績
1	移住定住相談支援事業	やぶぐらし課	移住を円滑に進めるため、移住相談等を田舎暮らし倶楽部に委託し、相談体制の充実強化、ワンストップ化を図る。	○
	都市部等での移住相談会開催件数	13回	子育て・移住サポートセンターを整備し、常駐スタッフが休日も対応。子育て・移住サポートセンターの利用者数の増加を図るため、PR活動を強化。センターでの移住関連事業の実施。高校生との連携事業を開始し、Uターン意識の醸成を図る。	625件
2	やぶぐらしプロモーション事業	やぶぐらし課	知名度を高め、田舎暮らしへの興味を喚起するため、総合支援サイト、空き家バンクHP、ガイドブック等を作成。	○
	サイトアクセス件数	259,241件	アグリ女子会を設置し、SNS発信や外部視点を活かしたフリーペーパーや活躍する女性を表現したポスターの作成。ポスター、フリーペーパー、フリーペーパー-SNS版等は継続的に実施し、関係団体、移住者、女子会等と連携して、効果的かつ魅力的な情報発信を進める。	-件
3	ちょこっと暮らし住宅支援事業	やぶぐらし課	移住の後押しし円滑に進めるため、移住希望者に最長1年間体験住宅を貸し出す。	○
	お試し住宅利用者数	5件	単身用住宅2棟を教育委員会へ返還した。全市的なお試し住宅の整備、多様なお試し住宅(事務所兼住宅)を検討する。	4組
4				

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
		大いにある	大いにある	高い
創生本部コメント				
基本目標に直接効果のある施策である。				
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
創生本部コメント				
施策の方向性に対して直接効果のある事業であり、子育て・移住サポートセンターの開設により体制等も充実していることから妥当である。				

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント
	現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 やぶぐらしプロモーション事業ではイベントによりサイトアクセス数が増加しているが、一過性で終わらず相談・移住に繋がるよう効果的なプロモーションを継続していくこと。 市内での転居など、地域ごとに過疎化のスピードも異なる。地域ごとの人口推計など現状を把握すること。 Iターン者とUターン者向けではPR等を分けた方がいい。

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	2
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に ⇒ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」 の流れを創る		◇5年後の転入者数 80人増加			
施策	概要		KPI		目標値	
若い世代をターゲットとしたU(1・J) ターンの促進	養父市で生まれ育った若者などへ結うターン(Uターン)を促す取組や帰郷を促すアプローチを市民総参加で行い、女性をはじめとする養父市に関わりのある多様なUターンを促進する。		U・Iターン支援制度を利用したU(1・J)ターンの者数		当初	50組(累計)
					2次	80組(累計)
KPI推移	H27	H28	H29	H30	H31	備考
	8組	31組	51組			累計

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
	主な活動指標	H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(6月末現在)	H29成果実績
1	やぶ暮らし住宅支援事業	やぶぐらし課	UIJターンの住環境整備への支援により移住を促進するため、助成や空き家バンクの物件紹介、相談を行う。	○
	U・Iターン者世帯加算者数	18組	宅建但馬支部を通じて業者に制度を紹介。現行制度の失効期限が30年度末であるため、効果等を検証し、新制度を創設する。また、類似する補助金の整理統合を図る。	18組
2	若者未来応援奨学金事業	教育総務課	就学支援及びUターンと定住促進のため、奨学金の交付及び奨学金の返還猶予・免除を行う。	○
	奨学生の数	11人	対象者を全学年に拡大し、PR時期を半月早めた。早い時期から制度を知ってもらい活用者を増やす。就学期間にも、養父市とのつながりを持たせるため、企業やまちづくり等の情報提供やインターンシップの活用を図る。	1組
3	結婚新生活スタートアップ事業	やぶぐらし課	新婚夫婦の経済的負担を軽減し若年世帯の移住を促進するため、新婚世帯に最大30万円の補助を行う。	○
	制度を利用し市外から引越した新婚世帯	1組	年齢要件と補助額を拡大。不動産業者に制度を案内。執行率が低い要因として、本制度の認知度の低さとともに、所得要件が低いことが挙げられる。国の補助要件に上乗せし、対象世帯を世帯所得400万円未満の世帯に拡大を検討する。	1組
4	小さな(1アール)農家活動応援事業	やぶぐらし課	農ある暮らしの実現のため、空き家とそれに付随した農地を取得し農業を始めた方に補助金を支給する。	○
	小さな農家活動応援事業補助件数	1件	関係部署等と連携しPR及び営農相談を行う。空き家活用意向調査において、農地の意向も確認し、掘り起こしを行っていく。1アール未満農地の活用事例をパンフにまとめ、週末農業、家庭菜園等を希望する移住者等にその魅力を発信する。	(1)組
5	孫ターン推進事業	やぶぐらし課	孫世代等との交流による将来的な移住定住に向け、シルバー人材センターに補助し、体験・交流事業を行う。	○
	孫ターン事業開催数	5回	都市部のシルバー等と連携し魅力あるプログラムの開発にあたる。補助事業(国補助)は30年度で終了するが、当事業で行っている婚活事業は、既存の婚活イベント補助を活用し、継続実施できるようにし、都市との交流事業についても、バスの使用等必要な支援を行う。	- 組

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
創生本部コメント 基本目標に直接効果のある施策である。				
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
創生本部コメント 多様な事業で構成され、対象者も幅広く設定されていることから施策に直接効果のある事業で妥当である。				

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント
	KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を引き上げていくこと。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。やぶ暮らし住宅支援制度が30年度末で失効するため、効果等を検証し、新制度を創設する。また、今年度で終了する孫ターン事業については、既存制度の活用を含め代替事業を創設すること。高校生等をターゲットにまちの魅力を伝える方法を検討すること。

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	3
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に ⇒ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」 の流れを創る		◇5年後の転入者数 80人増加				
施策		概要		KPI	目標値		
U・I・Jターン者等による起業・就業の促進		古民家、空き民宿など活用したU・I・Jターンによる起業やマンパワー不足が課題となっている介護・建設・農業・林業分野でのOJTによる就業を促進する。特に養父市に住む若い女性に対して雇用に繋がる資格取得等スキルアップを支援し、女性が活躍できる環境をつくることにより、女性のU・I・Jターンを促進する。		U・I・Jターン者のOJT就業・起業者数			
KPI推移		H27	H28	H29	H30	H31	備考
		3	7	8			累計

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
	主な活動指標	H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(6月末現在)	H29成果実績
1	地域おこし協力隊活動事業	やぶぐらし課	地域外の人材を誘致し地域力の維持・強化につなげるため、協力隊の活動と自立を支援する。	○
	隊員委嘱者数	7人	活動内容、成果、課題を地域や関係部局と共有し、市民向けの活動報告会等を開催。関係部局と連携し、各種奨励制度を紹介、関係機関との調整など退任後の自立に向けた支援を行う。関係部署と連携し、情報提供、人材紹介を行う。報償月額引き上げを検討。	1人
2	地域協力隊起業支援事業	やぶぐらし課	協力隊の活動終了後も本市に定着し活躍できる環境を整備するため、起業に必要な経費を補助する。	○
	隊員委嘱者数	7人	起業に向けた助言を行うため、関係部局(特区地方創生課、農林振興課、商工振興課)との意見交換会を実施。自立に向けて、関係部署と連携し、情報提供、人材紹介を行う。国の起業アドバイザー派遣制度を活用し、自立定着に向けてのフォローを行う。	0人
3	介護人材確保事業	介護保険課	介護人材確保のため、U・I・Jターン者として就職する者に対し、引っ越し費用や資格取得費用等の一部を補助する。	○
	U・I・Jターン者の就業者数の増加	0人	対象に障害福祉サービス事業所や、新卒者を追加し対象期間も見直した。今年度対象者等の拡充を行った結果を検証し、福祉系の専門学校等へ引き続き制度周知。サービス提供事業者の意識改革)。移住・定住、労働力確保の視点、従業員のWLBを取り込んだものが必要と考える。	0人
4	労働対策事業費	商工観光課	雇用・就業の場の充実と人材育成のため、若手職人育成事業や合同企業説明会等により就業支援を実施。	○
	若手職人育成事業による支援数	2人	本市での就業に繋げるためインターンシップ支援事業を実施。求職者のマッチングに繋がる新たな事業を検討する。OJTは本来企業が行うものであり、様々な業種の訓練を行政が行うのは困難であるため、雇用主に働きかける機運の醸成と、それを支援する制度の創設が必要。	0人

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 基本目標に直接効果のある施策である。			
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 施策に直接効果のある事業で妥当である。			

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント KPI推移は上がっているものの、目標達成には事業改善などの更なる努力を要する。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。実践型地域雇用創造事業の終了と若手職人育成事業の新規受付停止によりOJT就業者数が伸びていない。見直すものは見直し、インターンシップ支援事業をはじめ新たな就業支援の仕組みを構築すること。
----------------	---

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	4
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に ⇒ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」 の流れを創る				◇5年後の転入者数 80人増加		
施策		概要			KPI		目標値
ふるさと伝承体験学習の推進		お年寄りから昔ながらの伝統・遊び・料理等を伝承する機会を増やすことにより、生まれ育った地域や人への愛着を醸成する。			ふるさと伝承体験講座実施回数		当初 30回(累計) 2次 170回(累計)
KPI推移	H27	H28	H29	H30	H31	備考	
	27	73	105			累計	

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
	主な活動指標	H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(6月末現在)	H29成果実績
1	放課後ふるさと教育事業	こども育成課	養父市を愛する心の醸成を図るため、シルバー人材センター等の会員による文化や技術の継承を行う。	○
	ふるさと教育実施回数	27回	学童クラブに加えこども園でも実施した。講座内容を含め検討する。	27回
2	孫ターン推進事業(再掲)	やぶぐらし課	孫世代等との交流による将来的な移住定住に向け、シルバー人材センターに補助し、体験・交流事業を行う。	○
	孫ターン事業開催数	5回	都市部のシルバー等と連携し魅力あるプログラムの開発にあたる。補助事業(国補助)は30年度で終了するが、当事業で行っている婚活事業は、既存の婚活イベント補助を活用し、継続実施できるようにし。都市との交流事業についても、バスの使用等必要な支援を行う。	5回
3				
4				

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 基本目標に直接効果のある施策である。			
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 施策に直接効果のある事業で妥当である。			

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント KPIを達成したため、2次目標値を設定し、より効果を引き上げていくこと。 各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 今年度で終了する孫ターン事業については、既存制度の活用を含め代替事業を創設すること。
----------------	---

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	5
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に →ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」 の流れを創る		◇5年後の転入者数 80人増加			
施策	概要			KPI	目標値	
空き家を活用した移住・定住の推進	空き家解消に向けたストックの有効活用を図るとともに、農地と空き家を組み合わせるなどやぶぐらしを象徴する取組を推進する。			空き家バンク成約件数	50件(累計)	
KPI推移	H27	H28	H29	H30	H31	備考
	7	19	42			累計

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
	主な活動指標	H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(5月末現在)	H29成果実績
1	やぶの空き家活用支援事業	やぶぐらし課	移住促進のため、空き家改修費に補助を行う。	○
	やぶの空き家活用件数	1 件	空き家適正管理を促すパンフレットを作成、アンケート調査を活用しUIターン者への家屋需要に対応した物件の掘り起こしを推進。宅建但馬支部に依頼し、リフォーム業者に制度を案内。事業所が行う移住者用空き家改修、個人が行う空き家家財整理等のニーズを調査し、補助対象の見直しについて検討する。	23 件
2	小さな(1アール)農家活動応援事業(再掲)	やぶぐらし課	農ある暮らしの実現のため、空き家とそれに付随した農地を取得し農業を始めた方に補助金を支給する。	○
	小さな農家活動応援事業補助件数	1 件	関係部署等と連携しPR及び営農相談を行う。空き家活用意向調査において、農地の意向も確認し、掘り起こしを行っていく。1アール未満農地の活用事例をパンフにまとめ、週末農業、家庭菜園等を希望する移住者等にその魅力を発信する。	(1) 件
3	やぶ暮らし住宅支援事業(再掲)	やぶぐらし課	UIターン者の住環境整備への支援により移住を促進するため助成や空き家バンクの物件紹介、相談を実施する。	○
	U・Iターン者世帯加算者数	18 組	宅建但馬支部を通じて業者に制度を紹介。現行制度の失効期限が30年度末であるため、効果等を検証し、新制度を創設する。また、類似する補助金の整理統合を図る。	(5) 件
4				

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 基本目標に直接効果のある施策である。			
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 施策に直接効果のある事業で妥当である。			

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント 現在の進捗でいけばKPI達成の見込み。引き続き各事業の円滑な進捗を図ること。今後の方向性に沿って必要な改善を行う。空き家バンクやお試し住宅に多様な物件をそろえてPRすること。
----------------	---

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 施策評価シート

1. 施策概要「PLAN(計画)」

番号	1	-	6
----	---	---	---

基本目標①	“住みたいまち”に ⇒ふるさとへの愛着と魅力の醸成・発信による新しい「ひと」の流れを創る		◇5年後の転入者数 80人増加			
施策	概要		KPI	目標値		
戦略的なシティプロモーションの充実	養父市で育った芸術文化や伝統芸能など養父市の暮らしに関わる催しや地域で輝く「ひと」を盛り込んだプロモーションを充実させることにより、養父市の魅力を発信する。		芸術文化・伝統芸能に関する催し等の参加者数	12000人		
KPI推移	H27	H28	H29	H30	H31	備考
	10,706	9,627	7,862			

2. 実施状況「DO(実施)」(枝番○はH30新規事業)

枝番	事業名	担当課	概要(目的と内容)	有効性 (事業継続の必要性)
主な活動指標		H29活動実績	改善状況・今後の方向性 新規事業はH30の進捗状況(6月末現在)	H29成果実績
1	伝統芸能振興事業(葛畑農村歌舞伎)	関宮地域局	せきのみや子ども歌舞伎クラブの発足・公演を実施し、地域の活性化、地域伝統文化の向上を図る。	○
	上演回数	1回	OB・OGIに出演依頼をするが開催困難。伝統文化として存続していくためには、OBやOGIが主体的な継承の仕組み作りが必要である。榊松竹に頼ってばかりでは、資金面や、伝承文化に対する意識低下を引き起こし、存続すら危ぶまれる。地元密着で実施している自治体を参考に、今後の運営方針について伝承会等と協議する。	396人
2	木彫フォークアートおおよ事業	大屋地域局	若手チェロ奏者の発掘・育成を通して文化の高揚並びに音楽文化の向上を図る。	○
	出展作品数	125点	市HP、SNSを利用した情報発信、レイアウトについてを検討。会場の監視等を担う市民ボランティアが減少しているため、若い世代に呼びかけ定着を図る。阪急うめだ本店における展示会で新たな層へのPRを図り、来場者の増加につなげる。	4,654人
3	ビバホールチェロコンクール推進事業費	養父地域局	若手チェロ奏者の発掘・育成を通して文化の高揚並びに音楽文化の向上を図る。	○
	チェロコンクール1位受賞者のリサイクル	2回	新規スタッフ及びホストファミリーの発掘、柔軟な発想での運営のためNPO法人に一部委託。庁舎内体制の強化とさらなる市民の参画を促進しなければいけない。観光や農林部局と連携し、コンクールの翌年に開催している第1位受賞記念東京リサイクルを活用して養父市の観光や特産物をPRできるのではないかな。	558人
4	渡辺うめ人形展	生涯スポーツセンター	古き良き懐かしい養父市農村の風景を人情を通して後世に伝えるため、人形の維持管理と展示を開催する。	○
	常設展示、特別展参加者数	1925人	人形の総点検と人形調書の作成を実施。人形展での魅せ方改善に取り組む。同じ時代の写真と並列展示や作品過程のパネル化など。市内に分散している文化財や美術工芸品等を一カ所で見られる機会を造成する。	1,925人
5	ダンス普及推進事業	養父地域局	体力向上とダンスの楽しさを発見する機会として5歳から一般成人、特別クラスでダンス教室を開催する。	○
	参加人数	329人	体験教室の回数を増やすよう講師と相談中。今後もダンス教室を長期的に継続していくため、地元講師の指導を検討し、市民主導のグループ化へ移行していく。学校教育の場で現在の講師(大阪市)のステージが見られる環境作りを行い、養父市の若者が高度なダンス技術に触れる機会をもつ。	329人

3. 施策の分析「CHECK(評価)」と「検証」

①基本目標の視点から見た施策の評価について	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 基本目標に直接効果のある施策である。			
②施策の方向性に対して事業設定が妥当かどうか	必要性	有効性	効率性	本部評価
	大いにある	大いにある	高い	妥当である
	創生本部コメント 施策に直接効果のある事業で妥当である。			

4. 今後の方向性「ACTION(改善)」

次年度において対応すべき事項	創生本部コメント
	現在の進捗ではKPI達成には厳しい。既存事業の見直しを要する。各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。事業設定は妥当であるが、参加者数に減少傾向がみられる。シティプロモーションの充実という観点からは、市外への発信を前提として情報発信のあり方を見直すべき。